吉原の花魁道中

おいらん道中時間

往路：午後1時～1時30分
見世→引手茶屋 道中
（千束側スタート地点より出発し、ステージ前まで往路）

復路：午後2時45分～3時15分
引手茶屋→見世 道中
（ステージ前より出発し、千束側スタート地点まで帰路）

タイムスケジュール

10:30 千束小学校・幼稚園 / 富士小学校・幼稚園 吹奏楽演奏
13:00 おいらん道中
13:30 ステージショー　狐舞
13:45 江戸夢模様　望月太左衛社中
14:00 江戸吉原粋花街乃賑（えどよしわらのいきまちのにぎわい）
　演目　座敷の場
　　撮影会
14:45 おいらん道中
15:20 和太鼓ショー

※予告なくイベント内容が変更となる可能性がありますので予めご了承ください。

望月太左衛（もちづき たざえ）
重要無形文化財・長唄（総合認定）保持者。幼少より父（十代目宗家家元望月太左衛門）の指導を受ける。1994（平成6）年二代目望月太左衛を歌舞伎座にて襲名。2006（平成18）年東京芸術大学において博士号（音楽）取得。伝統芸能教場・鼓楽庵代表。NPO法人日本囃子音楽文化研究会理事長。台東区内にて「おはやしの会」など邦楽教育に力を入れ、国内での邦楽普及に加え、アメリカ・ドイツ等海外での演奏・講演など活動範囲を拡大している。

吉原の狐舞ひ
「吉原の狐舞ひ」は、江戸時代の吉原で大晦日に行われたという門付け芸。吉原は廓の四隅と大門の外には計5つの稲荷神社があり、遊女たちの信仰を受けており、遊女たち自身も「狐」と呼ばれていたりと、なにかと狐に所縁のある街であった。そんな吉原で大晦日、狐の面をかぶり御幣と鈴をもった「狐舞ひ」が現れ、新年を寿いだと伝えられており、その姿は葛飾北斎の浮世絵にも描かれている。

【ご注意】下記の行為については安全確保のため、おやめいただきますようお願いいたします。
・街路樹・ガードレール等へ登っての撮影
・ドローン（無人航空機）による撮影
・指定場所以外へのゴミの放置
・その他居住者、通行人および他の観客の迷惑になる行為

座敷の場

絢爛優雅な行列に江戸っ子たちも湧いた

吉原は、1617年（元和3年）に幕府公認のもと設置され、1657年（明暦3年）の「明暦の大火」を機に現在地に移転してから300年間、灯をともした最大の遊郭です。最盛期には3,000人の遊女がいたとされていますが、遊女には格があり、その頂点に君臨したのが「花魁」です。「花魁」になるには、容姿や気だてばかりではなく、幼い頃からの教育で身につけた詩や音楽、文学などの教養が必要とされていました。見世の屋台骨を支える稼ぎ頭だった「花魁」は、人気だけでなく、実力を兼ね備えた、素養豊かな大スターだったのです。そのため、禿や新造などさまざまなお世話をする者がついていました。

花魁がお客から指名を受け、自分の部屋から茶屋へ出向く道中行列を「花魁道中」といいました。禿や新造、妓太夫、やり手などに付き添われて行く華やかな行列はひとつの「見せ場」でした。そのため、有名な花魁の道中には、数多くの見物人が集まったそうです。

「江戸吉原　おいらん道中」では、「象潟」と「藤浪」の二人の「花魁」による道中が行われます。自分の部屋から引き手茶屋へ向かう「往路」と引き手茶屋から自分の部屋へ帰る「復路」がそれぞれ行われ、引き手茶屋ではお客と花魁が作法にのっとり顔わせを行う様子を再現します。

北めぐりん（浅草回り）　15番「千束三丁目」、16番「台東病院」、21番「浅草寺北」
北めぐりん（根岸回り）　19番「千束三丁目」
南めぐりん　27番「千束三丁目」
都バス（浅草四丁目、浅草警察署前、浅草二丁目）

花魁と客との粋な顔合わせを再現

吉原ではさまざまな作法や独特のルールがありました。客が花魁とは、最初の顔合わせである「初会」から始め、2回（「裏を返す」）、3回（「馴染み」）と少なくとも3回登楼しなければ、親しく接することができませんでした。ステージでの「座敷の場」で掛け見世、盃毎、煙管毎などでその様子を再現します。